

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

2011 年

No. 8

2011年11月15日(毎月15日)発行

財団法人 日本性教育協会

THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info@jase.or.jp URL http://www.jase.or.jp 発行人 松本清一 編集人 本橋道昭
© JASE. 2011 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

「関西性教育研修セミナー2011夏」報告 ……	1	「ありのままのわたしを生きる」ために⑧ ……	9
「東京性教育研修セミナー2011夏」報告 ……	5	今月のブックガイド ……	10
北丸雄二のニューヨークレポート⑧ ……	8	JASEインフォメーション ……	11

■ 「関西性教育研修セミナー 2011 夏」 報告

学校のなかの性的マイノリティ

—— 教育現場における排除と包摂 ——

9月4日は「世界性の健康デー」である。2011年のテーマは「若者の性の健康：権利と責任のわかちあい」。「世界性の健康デー」にあわせ、大阪で「学校のなかの性的マイノリティ」をテーマに、講演と事例報告が行われ、時を同じくして、横浜では、「愛とこれからの生と性～ちゃんと知っておきたい、オトコとオンナの事情～」をテーマにトークライブが開催された。

「関西性教育研修セミナー 2011 夏」の講演講師は、宝塚大学看護学部の日高庸晴准教授、事例報告は、「トランスジェンダー生徒交流会」世話人の土肥いつき氏、「共生社会をつくる」セクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク」副代表の宇佐美翔子氏である。



主催者あいさつ

◆ 講演

若者の性的指向と健康問題：

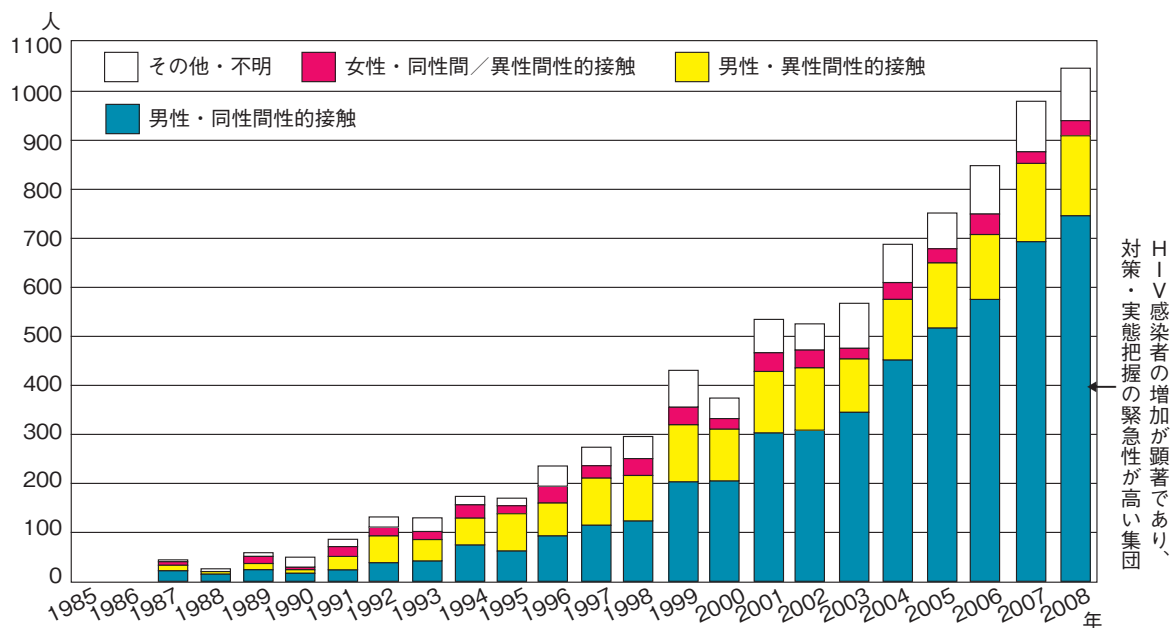
学校保健で見落とされがちな視点について

日高氏は、厚生労働省エイズ対策研究事業など数多くの調査・研究を行っている。それらの調査・研究に基づき、教育・保健医療・メンタルヘルスに関する講演をされた。

2005年8月～11月に厚生労働省の補助を受け、「ゲイ・バイセクシュアル男性対象のインターネット調査」が実施された。調査によると、ゲイ（同性愛の男性）とバイセクシュアル（両性を愛する男性）の約半数が学校でいじめに遭い、3人に2人は自殺を考え、14%は自殺未遂経験があるという。

この調査は、講師である日高庸晴宝塚大学看護学部准教授が中心に行ったもので、5,731人から回答を

図1 日本国籍 HIV 感染者の年次推移 (性別・感染経路別)



得た結果である。1999年から調査を始め、2003年、2005年、2007年、2009年の計5回で、2万人を超える方々が調査・研究に協力している。

最新の2008年7月18日～2009年1月6日に実施した調査結果の概要を最初に紹介し、そのデータをベースに、日高庸晴氏の講演要旨を報告することにする。この調査^{注)}の有効回答数は5,525件で、平均年齢は31.6歳、最終学歴は大学卒以上が56.2%、職業は正規雇用者が53.3%と最も多く、次いで学生16.9%、非正規雇用者10.8%となっている。

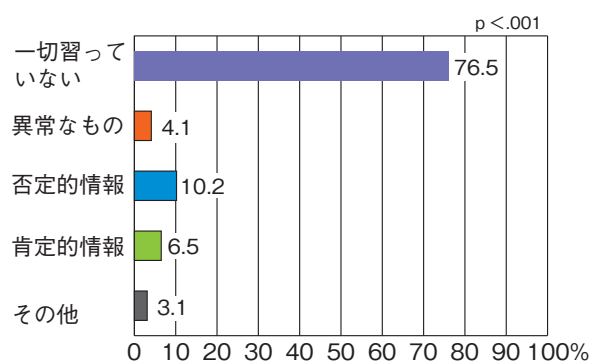
自認する性的指向は男性同性愛(ゲイ)68.1%、両性愛(バイセクシュアル)26.6%、その他・わからない・決めたくないが4.6%であった。

日高氏は、最初に、図1の「日本国籍 HIV 感染者の年次推移(性別・感染経路別)」(厚生労働省エイズ発生動向年報)を示された。感染経路を見ると、日本国籍の新規感染者の約70%が「男性・同性間性的接触(MSM)」であることがわかる。なかでも、若いMSMの感染者が約80%を占めているという。

この集団におけるHIV感染者の増加が顕著であり、対策・実態把握の緊急性が高い集団であることを、学校教育関係者は認識していないし、また、その視点でHIV予防教育がなされていないと日高氏は強い懸念を語られた。

日高氏は「すべての人にとって、性の健康、HIV予防に関する情報は必要ですが、病気の流行を考えた場合、まずその病気が流行している集団で、その対策

図2 教育現場における同性愛の扱い(有効回答数5,731人)



をしない限り病気の発生はおさまらない」と述べ、予防教育の視点とそのあり方に問題があると提起された。

学校で、異性間を対象にしたエイズ予防教育を受けた割合は49.6%である一方、男性同性間のそれは12.7%と低率であった。

学校教育での同性愛に関する情報の取り扱い状況についても、その現状は図2の通りで、「一切習っていない」76.5%、「異常なもの」4.1%、「否定的な情報」10.2%を合わせると全体の90%以上が不適切な対応をされている。

性的マイノリティへの偏見と差別が予防教育を阻害している日本の現状、世界の現状を例に挙げられた。なかでも1998年の米国ワイオミング州のゲイの大学生の殺人事件や2005年のイランの10代のゲイ男性絞首刑は、ショッキングである。

セクシュアル・マイノリティに対する偏見・差別や暴力が、抑うつや不安傾向、慢性的な精神的ストレ

ス、いじめ被害、自殺未遂など、多くの問題を生み出し、それが HIV 感染の予防を阻害しているという。

日高氏は、「性的指向を知らなければ支援できないのではなく、性的指向を言いやすくする環境をつくる努力自体が、すでに支援である」と提言された。

学校現場での教育が、男女間を対象とした避妊と男女間での性交渉による HIV 予防教育のみであるならば、結果的に最も予防教育が必要な集団に属する性的マイノリティに対する教育は、皆無となる。そのことを教育現場の人たちに危機感をもって認識してほしいと締めくくられた。

【注】

平成 23 年度厚生労働省エイズ対策研究事業の一環として行われた、「インターネットによる MSM の HIV 感染予防に関する行動疫学研究」の調査レポートは、<http://www.gay-report.jp/> から概要を入手できます。

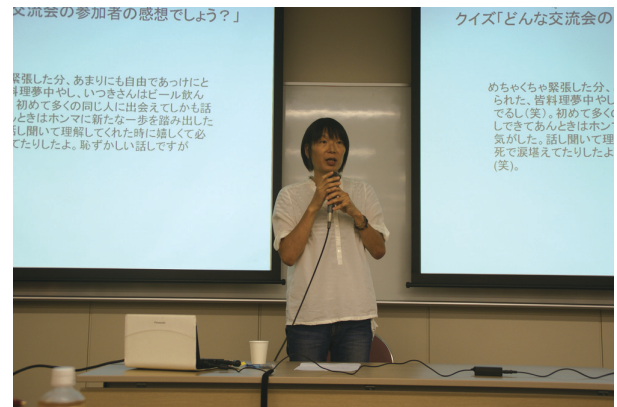
◆事例報告 1

トランスジェンダー生徒交流会からの発信

土肥いつき氏は、現役の高校教員として学校で人権教育に取り組むだけでなく、部落差別や在日朝鮮人差別、そして自らも性的マイノリティとして、さまざまな問題に取り組んでおられる。その活動の 1 つ「トランスジェンダー生徒交流会からの発信」の概要を報告する。

2006 年から始まった交流会は、非常にシンプルである。昼の 11 時に JR 新大阪駅の階段で待ち合わせ、近くの集会所に集まり、まず、昼ご飯を作り、ご飯を食べ、午後 2 時くらいになったら、「そろそろ自己紹介しようか」といって、自己紹介をするという。関西なので、当然「突っ込みあり」、一通り自己紹介が終わったら、また、2 回目の自己紹介が始まるのだという。1 時間半から 2 時間自己紹介し、それが終わると、「では後片付けしようか」となり、それで終わり。毎回毎回、同じプログラムなのだが、参加者は減らないという。

この生徒交流会の最大の特徴は、教員が一緒に参加することにある。生徒を引率して参加するのだという。それも出張扱いで参加するのである。そのことは、参加する教員の学校では、教育の一環、教育の課題として認められていることになり、教員同士のネットワー



土肥いつき氏の事例報告

クづくりにもなっているという。

また、この交流会には、トランスジェンダーの生徒だけでなく、「他のマイノリティと出会う場でもあるのです。私たちの活動を被差別部落の青年たちがサポートしてくれています。交流会に参加するだけでなく集会所を無料で提供するなど、さまざまな支援もしてくれています。また、在日外国人や障がいをもつ人たちが参加してくれたこともあります」という。

この事例報告で、土肥氏は参加者の声を、手紙やビデオなどで紹介された。その中から参加した生徒の作文を紹介する。

「性同一性障害だけじゃなくて、いろいろな分野での差別やら常識やら普通とかが、勝手な観念で根づいていたりすることを知った。今までは教科書でしか知らんし、リアリティなかったことでも、実際当事者の声聞いて、自分（性同一性障害）のこと以外に少し目を向けれるようになった。でもまだまだ自分のことで精一杯やったりするから、自分てちっぽけやなあって毎回痛感する。でもそれが逆に頑張ろうて気になれるから良い刺激になる。交流会はすげー世界の広がる所やと思う。てか広げられた（笑）！」

土肥氏は、最後に水平社宣言を取り上げながら、「いまの状況は、マイノリティをいたわる状況だと思う。いたわるということは、下に見ている、かわいそうだから助けてやる。そういう運動がいかに関心を持ち、墮落させてきたか、ということをして 1922 年の段階で水平社はいっています。私たち教員とか支援者というのは、子どもたちの前を掃き清めて、子どもたちが、こけんように、こけんように、としがちです。でも、それは違うと思います。子どもたちに適切なハードルを設定し、それを越えるトレーニングをすることで、子

どもたちが自分自身の力で立って、世の中のハードルを越える力を獲得する。少なくとも教員としての私は、それが役割だと思っています」と語り、その活動の一つが交流会だという。

◆事例報告2

セクシュアル・マイノリティ理解のために ～子どもたちの学校生活とこころを守る～

宇佐美翔子氏は「“共生社会をつくる”セクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワーク（共生ネット）」の活動の現状とDVD教材「セクシュアル・マイノリティ理解のために～子どもたちの学校生活とこころを守る～」について、その制作の目的と活用事例を紹介された。

最初に、共生ネットについて、次のように語られた。

「私たち“共生社会をつくる”セクシュアル・マイノリティ支援全国ネットワークは、セクシュアル・マイノリティへの根強い偏見の解消と真の共生社会をめざして、国政レベルに働きかけようと、2008年1月に発足しました。当事者のみならず、その家族や友人などの支援者からなる全国ネットワークです。

2004年に施行された“性同一性障害者の性別の取扱いに関する特例法”以降、性同一性障害については一定の理解が進みました。しかし、その他の多くのセクシュアル・マイノリティについては、いまだに正確な情報・知識が行きわたっておらず、その性的指向や性別違和感ゆえに、家庭・学校・職場・地域などあらゆる生活の場で、依然として多くの誤解や偏見にさらされています。

実生活では、セクシュアル・マイノリティの多くは、この世の中をユニークな視点で捉え、さまざまな分野で社会に貢献しています。しかし一方で、身近な家族の理解さえ得られず、その悩みをどこにも相談できずに孤立する場合も多々あります。私たちは、人生のあらゆる局面でセクシュアル・マイノリティが抱える固有の生きづらさを言葉にし、国や自治体に適切な対応や公的支援を促すことで、セクシュアル・マイノリティのみならず、日本に暮らすすべての人々が安心して、自分らしく生きられる共生社会の実現をめざしています」

その活動の1つである学校での啓発教育、イベント



宇佐美翔子氏の事例報告

やシンポジウムなどの教材である「教師と親のためのDVD」の内容を、実際に映写して紹介された。

その内容は次のような構成になっている。

【STEP 1 知る】図解「性」の多様性

セクシュアル・マイノリティを理解するための用語解説

【STEP 2 聴く】学校生活とこころ

当事者の体験談、ある先生の教育実践、精神科医による解説

【STEP 3 つながる】親と教師のための支援情報

子どもとの接し方に悩んだときに活用できるリソースの紹介

この教材は、大学の授業にも使われているという。大学で教育と臨床心理を学んでいる学生の感想をいくつか紹介された。

宇佐美氏は、活動の中で感じることは、「知らないことが、子どもたちを加害者にしてしまう可能性もあるので、知識として早い時期にセクシュアル・マイノリティについて学ぶ機会を子どもたちにもってほしいと強く思います。そのためには、まず先生たちが学んでくれないことには、生徒たちには伝わらない」と述べ、この教材を活用してほしいと締めくくられた。

事例報告の後、会場からの質問など、活発なディスカッションが行われた。

※当セミナーは、関西性教育研修セミナー実行委員会、世界性の健康学会、大阪府立大学「子育て教育系キャリア・コラボ育成」の主催、財団法人日本性教育協会の協賛を受け開催されたものである。

■第2回「世界性の健康デー in 横浜」・「東京性教育研修セミナー 2011 夏」報告

公開フォーラム

愛とこれからの生と性

～ちゃんと知っておきたい、オトコとオンナの事情～

第2回「世界性の健康デー in 横浜」が、横浜市社会福祉センターホールにて開催され、学生から思春期の子どもを持つ親など、幅広い世代から80名あまりの参加者が訪れた。上村茂仁・ウィメンズクリニックかみむら院長とクラブ銀座ラクーンのオーナー・西海美知代氏の講演・質疑応答が行われた。

世界性の健康デー実行委員会横浜事務局 上村 聡美・大淵麻衣子

◆講演1 (抄録)

携帯メール相談からみた若者の性

上村茂仁・産婦人科医、ウィメンズクリニックかみむら院長は、携帯メール相談に寄せられた声をもとに、若者の性への関心・意識、親とのかかわりやデートDVの実態などについて講演された。

上村氏は、デートDV防止プロジェクト・おかやまの副代表として、岡山県内の学生にEメールアドレスおよび掲示板のある性・性感染症のHPアドレスを公開し、無料ですべての学生の匿名の質問に直接答える教育活動を行っている。

『親子の間で、性の話題はタブー視されがちなのが現実。さらに学校は、性感染症やHIVの知識は教えても、セックスやピルについては教えていない。男子のマスターベーションも正しいやり方を教えてあげないと、将来の勃起不全、性交不能に繋がることもある。性交渉の練習としてのマスターベーションも大切。私は、女の子の人権を守るためにもコンドームをしなさい、性欲をコントロールできるようにしなさい、基本的に「セックスするにはお金がかかる」＝コンドーム、低用量ピルなどを必ず使うことを伝えている。

人間は生理的な欲求だけでなく、愛情や心のつながりからセックスを求める。従って、目的が子孫繁栄なのか、愛情を求めてなのか、両方なのか、はっきりさ



会場の様子

せなければならないのに、恋人間で話し合いがなされていないことが多い。ましてや女性からは切り出しづらい現状がある。そして知らず知らず、彼氏の言いなりになってしまう。こういった環境が、デートDVを生んでいる。

当クリニックでは、デートDVカップルのほとんどはコンドームをつけておらず、性感染症の感染率や人工妊娠中絶率が高い、という統計が出ている。これは若者だけの問題ではなく、各年齢層の約10%という、非常に高い確率で起こっているという現実をきちんと知ってほしい。客観的に見て、「どちらかが一方的に自分の意見を押し付けようとしている」という状態、それを我慢している状態こそが、すでにDVなのである。

また、出会い系サイトでの出会いは、レイプなどの危険性が伴うことも確かだが、一方で「メールのやり



総司会・斉藤麻紀子（左）、実行委員会代表・早乙女智子（右）

とりで救われた」とか、よい出会いとなり、交際や結婚に発展するパターンが増えてきていることも事実。ただ禁止するのではなく「ネットやメールでどう恋愛していくか」を教えなければいけない時代にきているのかもしれない。

子どもたちにとって安全な場所をたくさん作ってあげたい。何かに対して怒るだけでなく、なぜこうなったかを理解してあげ、その子の親子関係や友達関係、環境などもふまえ、きちんと心配してあげるのが大人の役割。若者の性と向き合うにあたり必要なことは、対等な親子関係であり、正しい知識を共通の教育とすること。幼少期からさまざまな問題に対して積極的に向き合い、解決法を編み出していく力を養っていくこと。人の嫌がることは無理にしない、自分の嫌なことはしっかり相手に伝える力をもつことが大切だと考える』

◆講演2（抄録）

男の正体・女の錯覚

～愛という名の勘違い～

西海美知代・クラブ銀座ラクーンオーナーは、夜の銀座で働いてきた女性の目線から、男と女の関係について講演された。

西海氏は、銀座でも老舗のクラブ「らどんな」で営業し、15年前にオーナーママとして独立。歯に衣着せぬさっぱりとした話と天性の明るさ、優しさが人を惹きつける。



講師の西海美知代氏（左）と上村茂仁氏（右）

『銀座で出会う男性は、同級生に比べると社会的な完成度も高く、とにかく魅力的な方が多いです。そういう人たちにずっと、爪先立ちの恋をしてきたように思います。男の人はすごく純粋で、正直で優しいけれど、裏を返せば、単純で明快でわかりやすい、ともいえる。「いたす」ということへの満足度が何よりも高いようで、そのために実にさまざまな努力を惜しみなくする。男は太古の昔から、したいしたいというDNAを常に受け継いでいくのだなあと感じます。若い彼女だと、デートのたびにしたいくて、一日何回もして、それが「彼に愛されてる」なんて思ったことありませんか？ たまにしないことがあると、「きらいになっちゃったのかな」と。これが、錯覚の始まりのように思います。男性は「愛しているからしたい」だけじゃない。彼女のことが間違いなく好きでも、本音はやっぱり性が先行していることが多いと思うのです。男性はからだを求め、女性はこころを求めている。お互いに錯覚の中で楽しくやっていくのかなと最近思います。

でも、単なるセックスパートナーだけでは終わりがくはない。男として、女として、愛されたいですよね。愛ははぐくむもの。与えるものであって、奪い取るものではない。自分の仕事を理解してくれて、立場を尊重してくれて、相手を思いやることができる人は、すばらしい愛をつかむような気がします。

昔働いていたお店で、ママが教えてくれたことがあります。付き合うなら、友達が多い人にしなさい、と。最初のうちはいいけれど、いつまでも二人きりで会いたがる男は、よほど変わり者で友達がいなかったのか、嘘で固めている場合が多いんだよ、と。「自分を

磨く」なんていわれたって、抽象的すぎて何をどうしていいかわからない。目の前にある1つ1つのことをこなしていくと、自然と立派なポジションや人間関係が築けるのかなと。本当の愛の見分け方も、わかるようになるのかもしれませんが」

■ 質疑応答

事前アンケートでは、「性について聞きたいこと、困っていること」についての質問を受け付け、会場からの質問と合わせて、講師／参加者とで意見交換を行った。

Q：「受験とセックスどちらを優先すべきですか？」（事前アンケートより）

A 1：セックスしながら受験したらいいじゃないですか？ あと5時間勉強したらマスターベーションしよう！ とがんばったりした。それでも医者になれたりするんですよ（笑）。セックスをガマンして勉強だけするのでなくて、メリハリをつけて両立されればよいと思う。（上村）

A 2：知っている例では、彼氏・彼女ともに受験を控えていて、「大事な時期だから別れなさい」というときに妊娠してしまった。親に無理矢理中絶させられ、彼氏は進学したが、彼女は受験どころか学校に行くこともできなくなり、中退してしまった。それくらいなら、私はしっかり産んで1年休学して、そのあと受験したらいいのではないかと思う。もちろん避妊が大事であることは言うまでもない。（早乙女）

A 3：学生時代に妊娠・出産した知人がいる。その知人の親が産んでいいよと言ってくれたのはすごいと思った。知人は赤ちゃんを育てつつ、無事大学を卒業した。こういう状況は、子どもよりも周囲の大人のほうが覚悟できていないことが多い。（参加者）

他にも障がい者の性・性教育・同じ女性とだけセックスしたい気持ちを何十年と保つのが難しいのはなぜだろうか・セックスレスが増えているのはなぜ、などの質問が寄せられた。

■ 交流ブース

会場エントランスでは、交流コーナーを設置。性に関する書籍コーナーの他、下記の皆様にご出展いただいた。

- ・日本誕生学協会：誕生学や出産前クラスのご紹介
- ・横浜 AIDS 市民活動センター：HIV に関する情報

のご紹介

- ・株式会社 TENGA：男性向けマスターベーショングッズの展示紹介
- ・ラブアンドピースクラブ：女性向けマスターベーショングッズの展示紹介
- ・漢方薬局の氣生：漢方茶の展示紹介・健康相談
- ・助産師による妊娠・出産・不妊等のよろず相談
- ・ヒーラーカウンセラーによるカードリーディング・恋の相談コーナー

なかでも、男性用マスターベーショングッズの展示に参加者の興味・関心が多く寄せられた。実物を手にとりながら、出展者の丁寧な解説を受けることができ、非常に好印象な様子であった。

また、「恋の相談コーナー」は、すぐに行列ができ満席に。カードリーディングという、いわば占いのなカウンセリングを初めて導入したことで、女性参加者にも親しみやすい雰囲気を演出。イベントを盛り上げる効果があったと考えている。

■ インターネットの活用

今年初の試みとして Ustream 中継を行った。直前に決定したため視聴数は伸びなかったが、来年以降もつなげたい。

twitter も利用した。公式アカウント @wshd2011 より告知や事前アンケート回答の紹介などを行い、twitter 経由での参加申込も受け付けた。また、参加者が当日の会場の様子を twitter で投稿し、多数の目に触れるきっかけとなった。幅広い年齢層に対しイベントの存在を訴求するために、今後もプライバシーに配慮しつつ活用していきたい。

※当イベントは、世界性の健康デー記念イベント実行委員会の主催、財団法人日本性教育協会、富士製薬工業株式会社の協賛のもと、国連人口基金東京事務所、日本性科学会、財団法人性の健康医学財団、社団法人日本助産師会、日本性機能学会、社団法人日本家族計画協会、日本性感染症学会、日本思春期学会、有限会社バースセンス研究所、性と健康を考える女性専門家の会、社団法人日本誕生学協会の後援を受けたものである。

※本イベントの事前アンケートや質疑応答、講演詳細等を盛り込み、年末に報告集として発行する予定である。詳細は事務局までお問い合わせください。

Email：was@umi.lar.jp

LGBT の歴史を学校で教える

カリフォルニア州のワンダーランド・アベニュー小学校では、2人のママやパパがいる家庭に関する授業があり、校長先生はオープンリー・ゲイです。でもこの学校でもいま、来年1月から同州内すべての公立学校に義務づけられた「LGBTの人たちがどのようにアメリカ社会に貢献してきたかを歴史教育で教える」という法律にどう対処するか戸惑っているそうです。

性的少数者の歴史が幼稚園から12年生（高校3年生）までの公立学校の必修カリキュラムに取り入れられるのはこれが初めてのことです。さてしかし、小学校4年生にゴールドラッシュの鉱夫たちの何人かはゲイで、サンフランシスコはそうして作られた街でもある、と教えるべきなのかどうか？

こういうときに助けになるのが教科書や副読本の存在ですが、8年生（中2）までの教科書は財政逼迫で2015年まで予算がつかいません。教科書作成は少なくとも4年はかかるので、教科書ができるとしても2019年になる。指針は現在示されていないのです。

ロサンゼルス教育委員会は1988年に性的指向を基にした中傷や侮蔑を生徒・教職員ともに禁止しました。それでもその後教職員がLGBTの生徒を虐待した事件が複数明らかになり、2005年からは保健の教科書で性的指向や性同一性について、それらをめぐる苦闘やLGBTの人々への抑圧などに関して教えるようになっていきます。もっとも、教科書にある「性的指向は選択したものではない」という一節は、宗教保守派の保護者には反発を買っていますが。

LGBTのことを教えるのが難しいのは人々がそれをセックスに結びつけて考えてしまうからです。つまり宗教的には「罪」に関することです。同性愛はセックス、しかし異性愛はロマンス、というわけです。

冒頭のワンダーランド小学校では幼稚園から小学2年生まで20～30人を集めた合同クラスでみんなに

自分の家族のことを話させたりしています。お母さん、お父さん、スポーツが得意な兄弟姉妹、はしゃぐ犬とか太った猫とか死んだ熱帯魚とか離婚した両親とか、そして2人の母親がいる家庭とか。

それだけで子どもたちはいろんな家族の姿があるのだとわかります。つまり性を教えずとも多様性は教えられます。でも中学・高校ともなると話はもっと複雑です。性教育は5年生から始められますが、同時にそのころからLGBTへのいじめも始まるからです。

2005年、ロサンゼルスダウンタウン・マグネッツ高校のスクールバス内でレズビアン生徒が殴打される事件が起きました。同高は全校をあげて対応しました。反いじめポスターを作り、ゲイ生徒とストレーターの生徒たちが一緒になって人権クラブを作ったり教職員たちも差別や偏見を払拭するための会合をもちました。美術史の先生は芸術に現れる同性カップルの話をし、英語の先生はゲイの黒人詩人・作家・戯曲家として有名なラングストン・ヒューズのことを取り上げました。11年生（高2）担当の歴史教諭であるダニエル・ジョクスは20世紀の公民権運動に絡めてLGBTの人権獲得運動を取り上げました。LGBTに理解のあるカニエ・ウエストやタイラ・バンクスなどの芸能人のコメントを紹介したり、ストーンウォールの暴動での逮捕者を人種隔離バスで黒人席に移ることを拒否したローザ・パークスの逮捕に、黒人少年エメット・ティルの殺害をゲイの大学生マシュー・シェパードの暴行死になぞらえて教えました。「私は歴史教師で、これは歴史です。この実話をなかったことはできません」とジョクスは言っています。

それでもアメリカは宗教が作った国。「ゲイであってもOK」というメッセージはキリスト教徒の自分の信条に反するとして、この法律への抗議のために公立学校から子どもたちを引き上げる親や、授業拒否を宣言する先生もいます。それがアメリカの今です。ただしそれでも、社会は少しずつ前へ進んでいます。

きたまるゆうじ ニューヨーク在住（18年）ジャーナリスト／作家／元・中日新聞（東京新聞）ニューヨーク支局長。

「ありのままのわたしを生きる」ために



第8回

小さなトゲのような思い

土肥いつき

京都の公立高校教員。24 時間一人パレード状態の MtF トランスジェンダー。趣味の交流会運営で右往左往する日々を送っている。

わたしは現在、勤務校で「人権教育担当」をしています。主な仕事は、教職員人権研修会や生徒向けの人権学習の企画や教材づくりです。その中で一番難しいのは教材づくりです。というのは、自分が使うのではなく、担任さんが使うものだからです。今年は新たに「沖縄」にかかわる教材づくりをしなくてはなりません。とりあえず「沖縄 人権 教材」でネット検索をしましたが、なにもありません。出てくるのは平和学習の教材ばかりです。もちろん平和学習も人権学習ではあります。しかし、わたしが生徒たちに問いかけたかったのは、「ヤマトンチュのウチナンチュへのまなざし」についてでした。でも、そんな教材、どこにもありません。なんのきっかけもなく途方に暮れていたとき、ある友だちが「こんなのがあるよ」と、1 枚の DVD を貸してくれました。「深く掘れ己の胸中の泉 沖縄学のまなざし (NHK・ETV 特集)」というその DVD を見た瞬間、自分の中にバラバラに存在していた問題意識が 1 つにつながりました。それから 1 週間ほど後、いつの間にか教材はできていました。

「でも」と思います。あのひらめきの瞬間を味わうことこそが大切なんだと、わたしは思います。その瞬間を味わったからこそ、子どもたちに「伝える」ことができるのではないかなと思うのですが…。

閑話休題

高校 2 年生の頃でしょうか。H コーラスにひとりの女の子が入部してきました。長い髪の毛で華奢な体つきをしたその子を見ると、なぜか無性に胸がドキドキしました。おそらくは一目惚れだったんだと思います。ただ、わたしは長く「第 4 のグループ」にいたせいか、女の子と話をする機会はほとんどありませんでした。ですから、告白するなどということは、とてもではありませんが考えられませんでした。それでも、片思い状態を、それなりに楽しんでいたような気がします。

ところで、その子のことはとても好きだったのですが、同時に自分の中に複雑な思いがあったことを、今思い出します。確かにその子を見ると、とてもドキド

キするのですが、同時に「いいなあ。あんなふうになりたいなあ」と、わたしはずっと思っていました。でも、すぐに「それは無理」とも思っていました。なぜならその子は女の子。わたしは男の子。なれるわけがないと思っていました。すると、また別の思いがわいてきます。それは「ずるい」という気持ちでした。なぜなら、その子は生まれながらに「それ」を持っており、わたしは「それ」を永遠に持つことができないならば、それは「ずるいことだ」と思っていたのです。そして、その思いは、やがてその子の存在そのものへの嫉妬心へと変わっていきました。では、その子を嫌いになるのか。それは違います。やはりその子のことを考えるとドキドキするのです。

わたしはいまだに「人を好きになる」ということがよくわかりません。その人みたいになりたいことが好きなのか、「他者」として好きになるのか。そういうことを友だちと話しあうことができていたら、あるいはわかったかもしれません。でも「あの子みたいになりたい」と友だちに言うのは、なんとなく「危ない」気がしました。そこで、そんな「小さなトゲのような思い」を「心のなかの小さな箱」にボイと放り込んで、「これが人を好きになることなんだ」と考えることにしました。すると、わたしはごく普通の高校生でした。

でも、わたしにとって高校時代はしんどい時期ではありませんでした。H コーラスの活動はとても楽しかったし、なにより、わたしが今高校教員をしているのは、そのとき出会った先生たちのおかげだと思います。「天文ではメシは食べへんで」と教えてくれた地学の先生。授業中、真剣に討論に応じてくれた国語の先生。そしてなにより、わたしをちょくちょく家に呼んでくれ、一晩かけて、文学を語りあい、音楽を語りあい、世界を語りあった英語の先生。そんな魅力的な先生たちが笑いながら話をしている職員室は、とても魅力的な「場」に思えました。「自分もあの場の仲間になりたい」と思いました。そして、わたしは高校の教員を目指すことにしました。

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

女性的な男の子へのいじめ

“乙女系芸人”楽（たの）しんごが、中学生時代3年間に渡るいじめ体験を中心に、これまでを赤裸々に語った初の自伝。受けたいじめは、同性愛嫌悪によるヘイトクライムである。ご多分にもれず、女性的な男の子がいじめの対象にされることは、少なくない。

楽しんごは、手でハートマークをつくって「ラブ注入!」と発するパフォーマンスで有名な、吉本興行所属の売れっ子。「ラブ注入!」のギャグは、小学生の間でも流行っている。ピン（一人）芸人として、高い声でオネエキャラと、ドスの効いた低い声でマッチョ役を使い分け、その鮮やかなギャップで笑いを取ったりする。女役と男役を自在に行き来する様は、ジェンダーロールを茶化しているようで、私の目には新鮮に映った。

明るい振る舞いの陰に、こんなにも過酷な体験があったことに、衝撃を受ける。本書の冒頭は、楽しんごが中学生の頃書いた遺書で始まる。あまりの辛さに首つり自殺を決行したが、ロープをかけたカーテンレールが重みで落ち、命を取り留めた。

いじめのきっかけは、中1の秋、通学路で他校の不良10人余に「オカマ」「ホモ」と目をつけられたことだった。制服姿の下半身を剥き出しにされ、蹴られ、「痛あ〜い」と悲鳴を上げれば揶揄され、暴力行為は日に日にエスカレートしていった。ライターで髪に火を付ける、汚いホースをのどの奥に押し込み水責め、「奴隷の烙印」と焼却炉で熱した鉄パイプを胸に押しつける、カッターで唇を切りつける……。

不良たちは、彼らの前でオナニーを強いたり、通りがかった別の気弱そうな男子の下半身も裸にし、互いの性器をなめ合うことを強要し、「気持ちわり〜」「死ぬよ、変態!!」と盛り上がりたりもした。

なぜ逃げなかったのか？ なぜ誰かにSOSしなかつ



泥だらけの制服

楽しんご著
ワニブックス
1,300円（税込み）

たのだろう？ 逃げ場は、不良たちが学校や自宅にまで押しかけて来て失った。チクったら、「チンコ切る」などと脅迫もあった。「隠しておきたい屈辱的な出来事」で、親には心配をかけたくなかったし、同級生には同情されたくない、巻き添えにもしたくなかった。そもそも「いじめを受けたことを相談するという発想もなかった」。泥だらけの制服は裏返し、自室でこっそり汚れを落とし、親にもまったく気づかれなかった。周囲がいじめを発見する難しさも、伝わってくる。

相手を選ばないと、SOSすれば救われるとも限らない。チクったといじめが激化してしまうこともあるし、いわゆる「男らしくない」生徒を教師が率先していじめる場合もあるだろう。

結局、楽しんごは不良たちの度重なる金銭要求と暴力に応じきれなくなり、無感情、無気力に陥り、制服の泥を落とすこともしなくなった。顔面には殴打の傷痕が生々しく残り、ようやく担任教師がいじめに気づいて介入し、拍子抜けするほど簡単に平和が蘇った。

筆舌に尽くし難い思いを味わいながら、楽しんごが自らのジェンダーやセクシュアリティ、居場所を探し求め続けたことに、敬服する。高校は女子が9割の私立の服飾科を選び、女子の制服で通学。高校生の頃からテレビに出演。有名になることが、リベンジだった。卒業後は、会社員とオカマバーをかけ持ったり、キャバクラ嬢やファッションモデル、テレクラのサクラ、整体師、アクション俳優など次々と挑戦。人間の多様性に気づかされていく。

現在は、お笑い芸人と、整体院「癒しんご」で人を癒す。「『人を癒す』仕事をするだけで、僕も癒されている」という。いじめ体験の先輩として、楽しんごは自分ができなかったからこそ、「人に伝えて助けてもらうことがいかに大切か」を強く訴えている。一発屋芸人で終わらずに、いじめられっ子の星としても、輝き続けてほしい。（フリーライター まつばらけい）

▶▶ 12月11日(日) 13:00～17:00 ◀◀

第12回関西性教育研修セミナー

テーマ「支援学校における教育とケア」

内 容 「福祉と教育の谷間～性の問題に対する視座への問い」 東優子 (大阪府立大学)
「性の問題行動への教育的アプローチ」 浅野恭子 (大阪府池田子ども家庭センター)
「知的障がいのある生徒への支援実践」 池川典子・船木雄太郎 (大阪府立泉北高等支援学校)・野坂祐子 (大阪教育大学)、ほか。

会 場 K.G ハブスクエア 1005 (関西学院大学 大阪梅田キャンパス) (大阪市北区茶屋町 19-19 アプローチタワー 10 階)

参加費・問い合わせ

参加費／1,000 円 (資料代)。定 員／40 名 (先着順)。対 象／子どもへの支援・教育に関わる方、テーマに関心のある方。
主 催：関西性教育研修セミナー実行委員会 協 賛：財団法人日本性教育協会
問合せ先／E-mail seekansai@inter7.jp URL <http://seekansai.web.fc2.com/SEE>

12/26(日)

13:30～17:00

健やか親子 21 公開講座

【テーマ】 思春期のこころとからだの健康～こどものからだ、こころ、そして性を守る～

【内容】 「こどもの自殺と『うつ』」 宇佐美政英 (独立行政法人国立国際医療研究センター国府台病院)、「おんなの子のからだと性」 齋藤益子 (東邦大学)、「おとこの子のからだと性」 高波真佐治 (東邦大学医療センター佐倉病院)、ほか。

【会場】 東京慈恵会医科大学大学 1 号館 3 階講堂 (東京都港区西新橋 3-25-8)

【問い合わせ先等】 参加費／無料。定員／250 名 (先着順)。締切／11 月末日必着。問合せ先／〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-3-17 虎ノ門 2 丁目タワー 6 階 日本学校保健会内 健やか親子 21 第 1 課題公開講座係 TEL 03-3501-0968 (担当：三谷)

▶▶ 2012 年 1 月 21 日(土) 13:00～16:30 ◀◀

HIV と性の教育セミナー (東京性教育研修セミナー) 「性の教育はこう変わる～ポスト『過激』のあらたな視点」

内 容 **講演** 「第 3 次男女共同参画基本計画にみる『性教育の勧め』のポイント」 池上千寿子 (ぶれいす東京)
シンポジウム 「教育と支援の現場から—新たな試みと課題」
① 「これからの二人—高校生のデート DV 教材自主制作から」 田中喜代美 (都立竹台高等学校養護教諭)
② 「課題の克服にむけて—LGBT 当事者の立場から」
③ 「HIV 陽性者支援と企業での研修の経験から」 大槻知子 (ぶれいす東京)
ディスカッション (フロアとの交流)

会 場 財団法人日本性教育協会セミナー室 (東京都文京区小石川 2-3-23 春日尚学ビル B1)

参加費・問い合わせ 参加費／1,000 円。定 員／30 名 (事前登録、先着順)。申込締切／2012 年 1 月 18 日。
対 象／HIV／エイズ、性教育に関心のある方、保健師、助産師、教師、研究者、大学院生、学生等。

主 催：特定非営利活動法人ぶれいす東京 協 賛：財団法人日本性教育協会
問合せ先／E-mail info@ptokyo.com FAX 03-3361-8835